事務事業名	コミュニティキャンパス推進事業		所属部	政策企画部	所属課	政策推進課
総合計画体系	政策名	〈I〉みんなで築くまち〈協働・行政経営〉		所属G	チャレンジ創生G	課長名 鳥谷 健二
	施策名	〈01〉市民が主役のまちづくりの推進		担当者名	稲田 幹大	電話番号:0854-40-1011 (内線) 2333
	目的・対象	市民	意図	まちづくりの課題を主体的に解決する。		
	基本事業	〈002〉まちづくりの人材確保		予算科目	会計: 0:1:1:0:0:1 項目: 0:5:3:5:2:1	大事業名: 企画総務管理事業 中事業名: コミュニティキャンパス推進事業
目的・対象	市民	意図	地域社会の担い手になる。			

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
①市民 ②大学生	①積極的に学生と交流する。 ②雲南市の地域課題を知り、地域活動に取り組む。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 □ 単年度のみ ■ 単年度繰返 (H27 年度～) □ 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	地方に関心のある大学生を対象に、地域でのフィールドワークや市内事業所・地域団体でのインターンシッププログラムを提供する「雲南コミュニティキャンパス」に取り組む。これを通じて大学生に学びと成長の場を提供すると共に、雲南市や地域との関係構築を図る。
④ 主な活動 R5年度実績(R5年度に行った主な活動) ・全国学生スタートアップ合宿(2回) ・ローカルチャレンジ養成講座(2回) ・まちまるごとインターンシップ(2月～3月) ・スペシャルチャレンジ伴走支援(3人)	⑤ これまでの改革・改善経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) H28年度より本格的に実施し、市内での活動に複数回参加する学生数は倍増している。コロナ禍によりプログラムの見直しが必要となり、オンラインの活用など学生が参加しやすいプログラムに見直しを図った。R5年度からは新たに長期インターンシップを導入し、学生と事業所・地域団体との継続的な関係構築が図られるよう制度の充実を図っている。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(実績)	R6年度(計画)
ア UCCに参加をきっかけにUターンした雲南出身の学生数	人	2	0	0	2
イ UCCの参加をきっかけにUターンした学生数	人	3	1	2	5
ウ UCCをきっかけに市内の地域活動に複数回参画した学生数	人	11	27	10	15
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R5年度決算)		② コストの推移		単位	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(計画)
・報償費	1,730千円	財源内訳	国庫支出金	千円	3,892	2,215	2,721	5,000
・委託費	10,933千円		県支出金	千円				
・使用料	9千円		地方債	千円				
合計	12,673千円		その他	千円	3,892	2,239	7,230	5,400
			一般財源	千円	0	0	2,722	4,600
		事業費計	千円	7,784	4,454	12,673	15,000	

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	コロナ禍により制限されていた大学のゼミ活動が復活したことにより学生の行動にも変化が見られる中ではあったが、地元島根大学・県立大学からの学生を含めて延べ41名が参加し、うち約3割がリピート(複数回)参加した。市内出身学生の参加が4名あり、今後も雲南市に関わり続けたい意志を持っていた。またR5年度より新たに長期インターンシップを企画し、8名のインターン生が雲南に住み・働くことを経験した。受け入れ事業所(6社)においてもよい影響が生まれており、今年度は10社に拡大して取り組んでいく。
② 事業実施するうえでの課題	本事業を通じて雲南市との関りをもつきっかけをつくった学生が滞在する拠点が必要であり、気軽に雲南に出入りできる環境づくりを行っていく必要がある。 また、参加学生のその後の動向を把握し、効果の検証を行っていく必要がある。
③ 課題解決に向けた改革改善等	R5年度の長期インターンは、プログラムの設計に時間を要し、2月～3月の期間しか実施できなかったが、本年度は8月～9月にも実施できるよう準備を進める。今後も関わりを持った学生が、多くの地域の人と触れ合うことで、関係性を築いていくことのできるようプログラムを常に見直し・更新していく。また、活動の認知度をあげるためにも広報活動にも力を入れていく。